

一歩ずつ世界と融合

松浦 俊博

コロナが全世界に広がる日常で国境閉鎖が行われる。否が応でも自国と他国を比較してしまう毎日である。こういう世界的な規模の災いに遭遇すると、周りの国と比べて自国の弱点を痛感する。日本がIT分野でも他国より格段に遅れていることを知り、恥ずかしい思いをした。近年、日本ではドイツや台湾と違い頭の良い人を首相にしないので、政治には期待できないだろう。

我々にできることは、世界との融合を進め国家間の壁を低くして、世界に遅れないようにすることだ。壁はなぜできるのか。言葉、人種、宗教などいろいろな要因があると思う。もし他国に暮らしたことや旅行した経験があれば、その国の人たちと話すことにより少し知りあうことになる。そうすれば彼らの良い点もわかり、少なくともその国が抹消されてもいいとは思わなくなる。これが壁を低くするための最初の一步だと思う。

言葉の問題について、例えば日本のIT分野の遅れは日本人が英語を使いこなせないことによるそうだ。今の小学生は英語を授業で習うしネットには英語が溢れているから、あと十年経てば状況はかなり改善するだろう。我々高齢者も時々英語文化に浸ることにより、世の中の足手纏いにならぬよう努力したい。

人種と宗教の問題は難しい。私自身はユダヤ教の人たちと距離を置いてしまう。世界各地にあるユダヤ人居住地やシナゴグは近づきにくい存在だ。ユダヤ系は世界中で融合することにより発展しているように見える。アインシュタインやガーシュウィンなど有能な人が多く、我々もその末裔ときちんと交流しないと壁を低くできない。

私の二人の子供たちがそれぞれイタリア人・カナダ人と結婚すると言ったとき反対しなかった。既に私も妻も最初の一步は踏み出していた。日本とイタリアとカナダには壁がなくなり、危機の際には地球を東か西に三分の一周した場所に避難できると気楽に考えている。一歩ずつでも世界との融合を進めれば日本の遅れを挽回でき、恥ずかしい思いをしなくて済むだろう。